

Safety Data Sheet

Roxtec Fire sealant (JP)

Internal document ID / Reference ID and revision
ROXNAV-339576052-178 / SDS-1147-v.3.0 Rev. 2

Originally compiled
2018-12-11

Current version publish date
2022-11-11

Previous version publish date
2018-12-11

セクション 1 – 化学品及び会社情報

1.1 製品名

Roxtec 防火シーラント

1.2 推奨用途及び使用上の制限

受動的防火で使用する防火シーラント。

1.3 サプライヤ情報

Roxtec International AB
Box 540, 371 23 Karlskrona, Sweden
電話: +46 455 36 67 00
Fax: +46 455 820 12
info@roxtec.com
www.roxtec.com

1.4 緊急連絡先 (受付時間)

Roxtec International AB
電話: +46 455 36 67 00
営業時間: 08.00-16.00 (CET)
情報の制限: 情報は英語のみです。

セクション 2 – 危険有害性の要約

2.1 物質または混合物の分類

この製品は、CLP 規則、EC 1272/2008、または化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS) 2015 年改訂 6 に従って危険物として分類されていません。

混合物は、REACH 規則、EC 1907/2006 第32条あるいは化学品の分類およびラベリングに関する世界調和システム (GHS) 2015 改訂 6 に準拠した安全データシート要件の対象ではありません。

2.2 ラベル要素

該当なし本製品には、マーキングが必要な物質あるいは濃度レベルがありません。

2.3 他の危険有害性

本製品には、PBT あるいは vPvB と評価される物質はいずれも含まれていません。

セクション 3 – 組成及び成分情報

3.1 物質

該当なし本製品は混合物です。3.2 を参照してください。

3.2 混合物

本製品には、マーキングまたは宣言が必要な、物質または同物質の濃度レベルは含まれていません。

セクション 4 – 応急措置

4.1 必要な応急措置に関する説明

肌に触れた場合: 石鹼と水で洗浄してください。

眼に入った場合: 純粋でよくすすいでください。

吸い込んだ場合: 対象者を新鮮な空気が通る暖かい場所で休ませます。

飲み込んだ場合: 大量の水で口内をよくすすぎ、水を吐き出させます。続いて、少なくとも ½ リットルの水を飲みます。

汚れた衣服は脱いでください。

4.2 最重要な症状/作用、急性と遅発

表示されていません。

4.3 即時医療措置および必要時は特殊治療が必要な場合の兆候

対症療法。

セクション 5 – 火災時の措置

5.1 適切な消火剤

適切な消火器: 周辺の火気専用の消火剤で消火します。

適切ではない消火器: 特になし

5.2 火災時の措置に関する特有の危

燃焼時、および不完全燃焼時に有害ガス（一酸化炭素と二酸化炭素）を含む噴霧、アルデヒドおよびその他毒性、有害、刺激性または環境に有害な物質が発生します。

5.3 消防士に必要な特別保護措置

欧州規格 BS EN 469、手袋 (BS EN 659) と長靴 (HO 仕様 A29 および A30) または同等の要件に準拠した通常の消防士用保護服を着用してください。自給式開回路正圧型圧縮空気呼吸装置を使用します (BS EN 137)。

セクション 6 – 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

洗浄時、適切なアレルギー検査済み保護手袋を使用してください。

ダストフィルター IIb (P2) は洗浄に必要な場合があります。

保護水内に漏れた場合は、すぐに緊急サービスに連絡してください。

本製品は吸引しないでください。また、肌や眼に当たらないようにしてください。

6.2 環境上の注意事項

製品漏洩物は常に土壌、草木、排水物、下水、水面や地下水まで到達しないようにしてください。

量の場合は、自然環境に放流されても、本製品が環境への大きな影響の原因となることはありません。ただし、大量の排出があった場合は、緊急サービスおよび環境庁に報告してください。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

可燃性廃棄物の処理物質は慎重に回収し、漏洩区域を水で洗浄します。

物質は空気に触れるように攪拌するのは避けてください。

汚れた製品は、化学廃棄物として取り扱い、非危険物として宣言する必要があります。

6.4 他のセクションの参照

保護設備および処分時の注意点については、セクション 8 および 13 を参照してください。

セクション 7 – 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全取扱い上の注意事項

物質は、健康に有害となる可能性があるものとして取り扱ってください。

使用後は、手をよく洗浄してください。

本製品の使用中は、飲食または喫煙はしないでください。

汚れた衣服および保護設備は、食事する区域に移動する前に、脱いでください。

7.2 配合禁忌を含む、安全保管の条件

涼しく乾燥した場所で保管してください (氷点以上、30 °C 以下)。

取扱は、換気が行き届いた施設で行ってください。

目線より下の換気の行き届いた区域で保管してください。

保管は元のパッケージのみを使用してください。

7.3 特定の最終用途

関連情報はありません。

セクション 8 – ばく露防止及び保護措置

8.1 制御パラメータ

すべての成分 (セクション 3 参照) には、職業暴露限界値が記載されていません。

8.2 暴露管理

以下の一般的な義務を除いて、この製品には特別な注意は必要ありません。

直接暴露あるいは飛散の危険がある場合は、眼の保護具を装着してください。

本製品の特性上、通常は保護手袋は必要ありませんが、他の理由、例えば、機械リスク、温度状態や微生物リスクにより必要な場合があります。非常に敏感肌の方は、「低耐化学薬品性」または「防水」ラベル表記のある手袋を使用することができます。

保護呼吸器が必要なのは、非常に過酷な作業環境での作業時のみです。この事例に該当する場合は、メーカーにご相談ください。

ダストフィルター IIb (P2) が必要な場合があります。

環境暴露限界については、セクション 6、12 および 13 を参照してください。

セクション 9 – 物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理および化学特性

a) 外観 (形態と色)	白、糊
b) 臭い	該当なし
c) 臭い閾値	該当なし
d) PH	7~9
e) 融点/氷点	該当なし
f) 初留点と沸騰領域	該当なし
g) 引火点	該当なし
h) 蒸発率	該当なし
i) 引火性	該当なし
j) 引火上限界/引火下限界または爆発限界	該当なし
k) 蒸気圧	該当なし
l) 蒸気密度	該当なし
m) 相対密度	1,61 kg/l.
n) 溶解性	水と混和.
o) 分配係数: n-オクタノール/水	該当なし
p) 自然発火温度	該当なし
q) 分解温度	該当なし
r) 粘度	該当なし
s) 爆発特性	該当なし
t) 酸化特性	該当なし

9.2 その他の情報

利用可能なデータがありません。

セクション 10 – 安定性及び反応性

10.1 反応性

本製品には、通常使用時に有害な反応の原因となる可能性がある物質は含まれていません。

10.2 化学的安定性

本製品は、通常の保管および取扱い状態では安定しています。

10.3 危険有害反応可能性

危険な反応は確認されていません。

10.4 避けるべき条件

表示されていません。

10.5 混触危険物質

表示されていません。

10.6 危険有害な分解生成物

通常の状態では、ありません。

セクション 11 – 有害性情報

11.1 毒性作用に関する情報

a) 急性毒性

本製品は、毒性に分類されていません。

b) 肌腐食/刺激

本製品は、腐食性ではありません。過敏性の方について、多少の刺激あるいは過敏性反応を排除することはできません。

c) 重度の眼の損傷/眼への刺激

過敏性の方について、多少の刺激あるいは過敏性反応を排除することはできません。

d) 呼吸器または肌感作

過敏性の方について、多少の刺激あるいは過敏性反応を排除することはできません。

e) 生殖細胞変異原性

確認できている範囲では、本製品について変異原性あるいはそれ以外で発生的毒性作用は報告されていません。

f) 発癌性

確認できている範囲では、本製品について発癌性作用は報告されていません。

g) 生殖毒性

確認できている範囲では、本製品について生殖毒性作用は報告されていません。

h) 特定標的臓器毒性 - 1回暴露

本製品は、健康有害に分類されていません。

i) 特定標的臓器毒性 - 再現暴露

確認できている範囲では、本製品について慢性作用は報告されていません。

k) 吸引の危険

過敏性の方について、多少の刺激あるいは過敏性反応を排除することはできません。

可能性のある暴露経路に関する情報

本製品は、健康有害に分類されていません。

物理、化学および毒性特製に関連する症状

情報は確認されていません。

遅発および即時作用、また短期、長期暴露による慢性作用

確認できている範囲では、本製品について慢性作用は報告されていません。

毒性の数値測定（急性毒性推定など）

確認できる情報はありません。

相互作用

確認できる情報はありません。

セクション 12 – 環境影響情報

12.1 毒性

本製品は、再生可能ソースから得られる、分解しやすい、自然発生あるいは天然由来物質で構成され、世界の環境への負荷はごく少量と考えられています。各地の環境では、多量に放出した場合、多少の生体への作用が発生する場合があります。

12.2 残留性・分解性

本製品は、自然環境で分解されます。

12.3 生体内蓄積能

本製品あるいは同含有成分も、自然に蓄積されることはありません。

12.4 土壌中の流動性

本製品は水と混和するため、土壌および水中で変化します。

12.5 PBT および vPvB 評価の結果

化学安全報告書は作成されていません。

12.6 その他の悪影響

表示されていません。

セクション 13 – 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

本製品は、有害廃棄物に分類されていません、国および地方の廃棄物管理法制への順守が必要です。

本製品は通常、リサイクルされません。

汚れた製品は、化学廃棄物として取り扱い、非危険物として宣言する必要があります。

下水処理します。

セクション 14 – 搬送情報

本製品は、国際海上危険物規則 (IMDG) および国際民間航空輸送協会 (IATA) 規則の危険物の陸路輸送 (ADR) および鉄路輸送 (RID) 規則の現行条項においては危険ではありません。

14.1 国連番号

危険物として分類されていません。

14.2 国連適正輸送名

該当なし

14.3 輸送危険分類

該当なし

14.4 梱包グループ

該当なし

14.5 環境上の危険物

該当なし

14.6 使用者のための特別な予防措置

該当なし

14.7 MARPOL 73/78 および IBC 規則付録 II に準拠した一括輸送

該当なし

セクション 15 – 適用法令

15.1 国際規格 モントリオール議定書（付属文書A、B、C、E）

非該当。

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約

非該当。

事前通報承認制度（PIC）に関するロッテルダム条約 化学兵器禁止条約リストスケ
ジュールI、II、IIIの化学物質

非該当。

POPおよび重金属に関するUNECEオルフス（Aarhus）議定書

非該当。

セクション 16 – その他の情報

このバージョンは以下の更新安全データシートと入れ替えます。2019-11-14

更新 SDS の変更理由: 一般的な更新